

さとわ

No.20

さとわ

緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。



施設長 篠川 主

お別れの前に

郷和は木々の目に優しい緑の葉に被われ、庭にはチューリップや小さな花々が咲き、病棟の皆様に春を告げております。

これまで新型コロナのため色々な面会制限を行ってまいりましたが、現在は午後2時から4時30分まで、人数には制限がありますが年齢に制限は無く、連日入院患者様にお会いできる制度を暫く続けております。また入院患者様の外出も可能となっております。

昨年よりコロナ禍以降初めて御遺族様と対面での「家族の会」を2回開催させて頂きました。その会で聞かれたお話しの一部を紹介させて頂きます。最愛の方を亡くした後も周りの人達と逞しく接して生きる様を、面白おかしく語られたお話し。御兄弟を亡くした後にお子様がお不治の病を患い、他の御家族との葛藤を抱えながら看病されているお話し。またがんは良い病気だったというお話し、など様々な思いを伺う機会を頂きました。がんが良い病気だとの真意は、不慮の事件や事故に巻き込まれて突然御家族を失うことに比べれば、がんは十分患者様との生活を顧みて残りの時間を大切に過ごすことができたからということでした。

現在面会時間にコロナ禍以前よりも多くの車が、駐車

場に停車されております。厳しい面会制限があった期間を経て、入院患者様に会いたい、一緒に時間を過ごしたいという御家族様の思いがより強くなったのではないのでしょうか。最近亡くなる方の1割近くが身寄りが無く、自治体の職員が葬儀に係わっているという記事を目にしました。また入院される方の中には御家族様から孤立したり、御家族様の中に疎遠になった方が居られ、その修復が困難な状況の患者様を見かけることも少なくありません。私達はそのような患者様や御家族様のお気持ちに寄り添うことも大切なことと考えております。しかし解決できる完璧な術を持っているわけではありません。

私達を取り巻く人間関係がどのようなものであっても、この世に「生」を受けた以上、「死」が訪れることによるお別れは避けられません。私達の二人に一人が罹患すると言われる「がん」がその原因となることは少なくありません。がんと診断され死の存在を身近に意識し、初めて周囲の方との解決できない問題があることに気付くかもしれません。最期に辛いと感じるのは身体的な苦痛だけでなく、心の中にも痛みは生じます。御自身に死を覚悟するような危険な病は無いと感じておられる日常にこそ、周りの方との絆を大切にお過ごし頂きたいと願います。

緩和ケア病棟の相談員として

南部郷厚生病院 医療相談員
関根 徹

昨年の7月から南部郷厚生病院で勤務をして、もうすぐ1年が経とうとしています。

私はこの病院に来るまで緩和ケアに関わる事が無かったため、正直なところ郷和について亡くなる人が多く、どちらかといえば暗くて悲嘆的なイメージの場所を想像していました。しかし初めて郷和に入った時には明るく開放的な雰囲気だ驚いたことを覚えています。

入院相談で来院される方からも同じような感想を頂くことが多いですが、いまだに緩和ケア病棟は亡くなるために入る所で、入院したら最後まで出られないと思われている方も多くいらっしゃいます。そういった方にも出来るだけ分かりやすく郷和のことをお伝えできるように日々心がけています。

また痛みがなく症状が落ち着いている患者様に対しては、ご希望があればご自宅などに退院できるように、他の医療機関や福祉サービスに繋げるようなお手伝いも行っています。

「郷和」は患者様が、痛みや苦しみがなく最後まで穏やかに自分らしい生活を過ごして頂くための場所だと思います。私もまだまだ患者様や御家族様から学ぶことが多いですが、できるだけ皆様の気持ちに寄り添った支援をしていきたいと思っています。

何かありましたら遠慮なくご相談を頂きたいと思っています。



ボランティア係より

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟 看護師
金子 かおり

新型コロナウイルス感染拡大により休止していたボランティア活動ですが、春の庭の手入れから活動を再開しました。草取り、植木の剪定など行って頂いています。今後は少しずつ活動を拡大し、以前のような活動に戻していく日が来ることを楽しみにしています。



遺族会係より

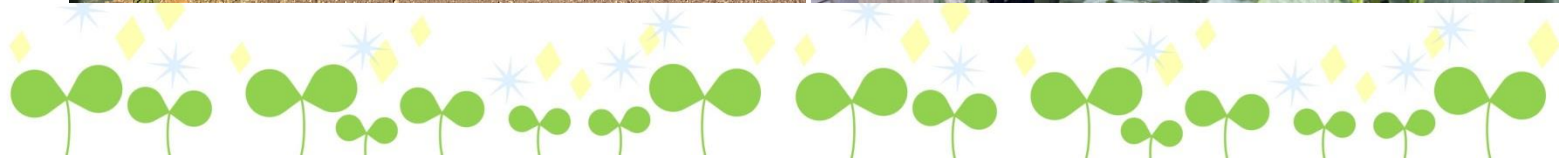
南部郷厚生病院 緩和ケア病棟 看護師
熊倉 友子

緩和ケア病棟郷和では遺族会係として「家族の会」を実施しています。ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大により開催できませんでしたが昨年より感染対策に留意しながら開催させて頂いております。「家族の会」というものは、年に2回緩和ケア病棟で患者様を亡くされた御遺族の方々と思い出話やご苦労などを語り合う会となっており、私たちスタッフは「家族の会」を通して皆様のお役に立てればと考えています。最後になりましたが様々な思いを持ち参加して頂ける御遺族の方々には御礼申し上げます。

4月より緩和ケア病棟「郷和」へ異動となりました、横山です。私は以前、緩和で9年間勤務し緩和ケアを実践しておりました。五泉中央病院開設に伴い異動いたしました。この度、郷和へ看護師長として戻ってまいりました。こちらに赴任し、改めて自然豊かな環境に、心がほっとするような感覚になりました。満開の桜並木を患者様と散歩し、患者様が笑顔を見せてくださいました。患者様にとっても緩和の環境は、心がほっとする時間を作り出してくれているようです。看護師にとって、患者様の笑顔は何よりの喜びです。郷和では、春には桜、夏にはプランターでの野菜の栽培、そして収穫した野菜を患者様と食し、秋には中庭の草木の紅葉、冬には遠くに見える山々の白銀の頂きと、四季折々に景色を変化させてくれる自然豊かな環境に恵まれております。この環境もまた郷和の魅力ではないかと思っております。

郷和では、身体的苦痛だけではなく精神的苦痛・霊的苦痛・社会的苦痛といった全人的な苦痛を医師・看護師・ソーシャルワーカー・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ・ボランティアがひとつのチームとなり、患者様・御家族様の様々な苦痛を和らげ、生きることを支えるケアを大切にしております。また、患者様・御家族様の想い・希望、価値観を尊重し「患者様らしい生活・人生の質」を共に考え、寄り添った温かい看護となるよう関わらせて頂きたいと思っております。そして、郷和で過ごされた時間が、患者様だけではなく、御家族様にとっても、より良い時間となるよう御家族様へのケアも大切にしていきたいと思っております。

私達は患者様と共に今を生きることとは何か、患者様にとって何が必要なのかを考え、多様なニーズに対応できるよう、他職種がひとつのチームとなり、これからも患者様・御家族様と共に今を感じていければと思います。



2023年度 実施行事

5月	端午の節句	12月	クリスマス会
6月	菖蒲湯 梅ジュース、梅酒作り	1月	鏡開き、お汁粉作り
7月	七夕まつり	2月	豆まき
8月	夏祭り	3月	ひな祭り
9月	芋ほり		

「郷和」利用状況

(2023年4月~2024年3月)

入院患者数	55人
-------	-----

退院患者数	57人
(死亡退院)	55人
(転医)	1人
(施設)	1人

一日平均入院利用者数	15.3人
------------	-------

平均病床利用率	76.7%
---------	-------

平均在院日数	118.1日
--------	--------

発行年月日 2024年6月24日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300

ホームページ <https://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

メールアドレス kosei@sinjinkai.or.jp

